

swallow park

Newspaper

Vol.021



テクノドライブ ジアース

Photo & Text: トウキョー

『BEAT PLANET MUSIC (以後 B.P.M)』10周年勝手に大特集。第三弾完結編は2007年のNOBLE MAMA RECORDワークス、Sweep Station [Link] を駆使した作品に関わった《TERRA TERMINAL》の寺田美奈さんインタビューです。

『BEAT PLANET MUSIC 100 LOOPS』 [Link]

『SWEEP STATION DEPTH LIVE』 [Link]

それぞれ60分のノンストップ MIX は、リンク先にてノーカットで配信中です。合計120分、存分にお楽しみください。

◆ B.P.M の攻略と長編の作曲に挑んだきっかけは？

いろいろ言いたいことはあるんですが、お茶の間で使える作曲ツールなのに「シーケンサーが貧弱」とか「音ネタをPCへコピーして使う」などの他人の評価を見て、「なに言ってるの! (怒)」と。圧倒的な証拠付きで、ちゃんと使えた事実を残したかったんです。それで、テクノが好きだけど機材を買えない中学生とかに「B.P.Mで充分!」と伝えたい。

◆ メモリ5個フルで完成した100ソングは作りやすかった？

「使える使えない」は自由度じゃなくて、いかに活用できるかなんです。90年代中盤までのテクノって、グルーヴマシンや長時間のサンプラーも無く誕生して来たはずで、シンセからテクノを生み出すアイデアがテクノロジーと融合していたと思うんです。B.P.Mのスペックがあれば、どんなことが出来るのか、コンセプトと手法は同時に思いつきました。作りやすいとかでなく、『B.P.Mでないと作れないテクノ』だから地球上を巡る音楽です。1個20ソングでメモリ5個使ったのはもちろん、サンプリング容量もフランス語のセリフを詰め込んでいて、本当にメモリカード満タンなんですよ。

◆ 全曲名が地名なのは、走破して音を増やすストーリーを引き継いでいますね。フランス語では何を言っているの？

「明日は9時出発です」とか「窓の外にフラミンゴの群れが居ます」とか、地球4周の旅のつぶやきです。友人のしゃべりをCDに焼いてから、ゲーム標準のやり方で取り込みました。音色は他のプレイヤーと似るのは分かってたので、誰にも似ないオリジナル音源をサンプリングから加えました。

◆ 寺田さん自身が音声解説している『DEPTH LIVE』では、CDプレイヤーとしてB.P.Mを使っていますね？

ツールとしての奥深さと可能性を実演で示すというか。DEPTHのライブプレイに音圧を加える飛び道具として、KAOSILATORでもELECTRIBEでもなくSweep Stationにこだわったかったんです。チップチューンとまではいかないけど、生音時代の最後のゲーム音質じゃないかなあ。冒頭の解説を入れたのは「これ、実は後から編集でお直しますよー」という控えめな告白でもあります。映画のDVDで本編見ながら役者と監督がずっとしゃべっている音声特典がありますよね。CDであれをね、60分やろうかと。短めに切り上げたけど。丁度ゲーム攻略中の06年後半にやっ



てたTVドラマ『のだめカンタービレ』でオーケストラ演奏中に、指揮者の心の声で曲の解釈や抑えきれない気持ちが入って、そのままCD化すればクラシック初心者のドラマファンが買うのでは?! と思って、それも頭のどこかにありました。

◆ おすすめのテクノのCDを上げるとしたら？

POPすぎない初期と近年のOVERROCKET [Link] が大好きなんですが、ボーカルのみちよさんが06年に参加した別ユニット『COLOURS / FARBE』 [Link] のRoppongi Thingという曲でB.P.Mの音ネタ(TYO-0653)「ヤーヤーヤー」が耳に飛び込んできて、それで押し入れで眠っていたゲームを取り出したのが大元の出発点になってます!

◆ 見聞きしたものが即アイデアとなることは多いですか？

完成までに半年以上費やしているのが即時かどうかは別ですが、振り返ると喚起されるヒントをキャッチできた期間でした。それで、私の発信した音楽や方法や尊敬が、次は、誰かつくる音楽のアイデアになったらおもしろいと思っています。更新終了を宣言している寺田ブログ [Link] も、ほぼ毎日、検索キーワード「BEAT PLANET MUSIC」から足跡が残っていて、気になる人は今でもソフトをいじってるんでしょう。交差して受けた刺激が、その人なりの発信になる連鎖が起きたらトテモ☆ステキです。

◆ B.P.M が好きな人、これから始める人にもメッセージを

続編が出ない限りSweep Stationシリーズの最新作ですから、これを楽しめた人は語り伝えて欲しいです。あと、テクノが好きだけど、どうしたらいいか分からないB.P.M未体験のゲーム少年少女は、数百円の中古で買ってきて音をならべてみて欲しい! 『誰でもテクノ』と呼びたいゲームです。

寺田さんありがとうございました。どんな楽器もソフトも使い方次第ですね。『誰でもテクノ』はつまり、「聞く者」から「やる者」へ。スキルゼロ、音楽知識がなくても出来る音楽を模索するという、野外即興演奏部 [Link] の提唱とも合致します。そういえばこのマスタリング期間中に、私がシンセとDEPTHで、即興部から部長onoさんがベース&リズムマシンと、もう一人轟音ギターの方とでスタジオセッションをやったこともありました。思いついたらやる方が面白い! 徹底的にやったらネクストゲートが見えてきます。